

令和3年度 第4回江別市かわまちづくり協議会 会議録（要点筆記）

日 時：令和4年3月29日（火） 10:00～12:00

場 所：江別市民会館37号室

出席委員：小篠隆生会長、内田悟委員、町村均委員、境珠美委員、藤原英大委員  
（計5名）

欠席委員：鴻野徹副会長、高橋利光委員、林匡宏委員

事務局：経済部長、経済部次長、商工労働課長、観光振興課長、総務部契約管財課長、  
教育部郷土資料館長、建設部管理課参事、建設部管理課主幹、治水課長、治水  
課主幹、江別河川事務所（3名）、商工労働課主査（2名）

傍聴者：1名

**会議概要**

1. 開会
2. 議事

(1) 前回協議会の振り返り（説明：事務局 川島商工労働課長）

(2) かわまちづくり勉強会開催報告（説明：事務局 川島商工労働課長）

- ・ 小篠会長：1年半の間に8回勉強会をやってきて、最初は川のアクティビティ等を議論する場として思われていたかもしれないが、条丁目全体の広域な視点からまちづくりの考え方や課題をみんなで考えていくという意識に変わってきたと思う。普段全く情報が聞けない、情報が伝わってこない人たちが勉強会に参加することによっていろいろな生の情報が聞けるようになり、いろいろなことを考えている人の顔が見えてきた。1年半前の状況と今では、地元の人たちも違ってきているのではないかと思う。

(3) かわまちづくり計画書（素案）に対するパブリックコメントの実施結果について

（説明：事務局 川島商工労働課長）

- ・ 藤原委員：旧岡田邸母屋の調査報告書を見られるのはいつか。
- ・ 川島商工労働課長：委員の皆様へ調査報告書を送付した上で、今後の協議会の中で議論を進めていただくことで考えている。
- ・ 藤原委員：パブリックコメントについては、意見を言いたい人、かわまちづくりに関してモヤモヤしていたり不満を抱いている人がいるのだと感じた。説明のあった回答内容で納得してもらえないかもしれないが、パブリックコメントでいろいろな意見を把握し、それに対して関わっている人全員でひとつひとつ納得し解決していくのが非常に大事だと思う。
- ・ 内田委員：先に、旧岡田倉庫活用民間運営協議会が外輪船の管理運営をどうしていくのかをきちんと解決して進めないと、かわまちづくり協議会で管理運

営体制の議論ができないと思う。両協議会で十分議論し、これからの体制をどうしていくのかを決定した方がよい。

- ・ 川島商工労働課長：旧岡田倉庫活用民間運営協議会とはこれまでもやり取りをしており、もう少し詳しい情報を提供した上で、今後のことを考えていただくように話を進めているところである。本協議会で管理運営体制を議論していく上でも、旧岡田倉庫活用民間運営協議会の方針整理は非常に重要な点であると考えているので、今後、両協議会のやりとりを密にし、本協議会の動きをご理解いただけるようにしていく。
- ・ 小篠会長：旧岡田倉庫の運営活用を考えていく上で、旧岡田倉庫活用民間運営協議会の協力が必須であると考えている。両協議会で議論していかないと内田委員が懸念している問題は解決されないと思うので、まずは、両協議会会長の会談を実現させたい。
- ・ 小篠会長：パブリックコメントへの回答は公開されるのか。
- ・ 川島商工労働課長：議会報告も含め全体を公表するとともに、意見を提示した方については個別に回答を行う予定である。
- ・ 小篠会長：説明資料では淡白な表現になっているので、議会等から質問があった場合は丁寧な回答をお願いしたい。

#### (4) かわまちづくり計画書（最終案）について（説明：事務局 川島商工労働課長）

- ・ 小篠会長：最終案で江別市長の内諾を受けるとのことで、もし本協議会で修正がなければ、かわまちづくり計画を申請するプロセスに入ることになる。
- ・ 川島商工労働課長：本日、最終案を固めていただいた後、かわまちづくり協議会から市長にご報告いただき、それを受けて江別市として正式にかわまちづくり計画書として決定し、国土交通省に登録申請をさせていただく流れになる。
- ・ 藤原委員：かわまちづくり計画書に掲載されている平面図にコミュニティセンターの記載がないのは、何か理由があるのか。コミュニティセンターは施設規模が大きく図書館も併設されていて利用者が多いので、条丁目地区の重要拠点のひとつだと思う。また、ドラマシアターどもも文化財であり一般に貸出している劇場なので、いろいろな人が集まる場所になっている。
- ・ 川島商工労働課長：意図があって記載しなかったということではなく、これまでの議論からかわまちづくりの方向性、ハード・ソフト施策をまとめていく過程で関連する施設を整理した。今後、具体的な施策を考えていく中で加わっていくことになると思う。
- ・ 小篠会長：歴史的建造物はどこまでが入るのかという観点でいえば、ドラマシアターどもは入ると思う。他にも江別市指定の歴史的建造物があれば、記載しておくべきなのかもしれない。コミュニティセンターはこれからもコミュニ

ティの拠点として利用されていくと思うが、かわまちづくりの提案事業に位置付けされていないので、公共施設として記載すべきだと思う。勉強会が定着しコミュニティセンターで月 1 回開催されて、地域の人たちの情報共有のような形で動いていくようになれば、コミュニティセンターがかわまちづくりの拠点になるという見方もできると思うが、そこまでの議論はしていない状況である。

- ・ 川島商工労働課長：会長と事務局にご一任いただき、修正対応を行う。
- ・ 内田委員：千歳川にチョウザメが生息している話を聞いた。江別の歴史や文化を子どもたちに伝えていくという視点では、歴史的建造物だけでなく生物も重要だと思う。かわまちづくり計画書とは直接関係ないが、例えばチョウザメを寄付された場合に対応は可能なのか。
- ・ 川島商工労働課長：生物の寄付を受けた事例がないので即答できないが、歴史的建造物以外の文化を残してどう伝えていくかが重要だと認識している。市民が研究会を立ち上げて、江別市内を流れる河川の生態系を子どもたちに知ってもらう活動を行っているが、今後のかわまちづくりの議論のテーマになってくるかもしれないので、議論を経て対応していくことになると思う。
- ・ 内田委員：外輪船のエントランスに大きめの水槽を設置して飼育するのもありだと思うので、今後工事をやりながら考えていければと思う。
- ・ 大石所長：現在、江別河川事務所で魚類を飼育していないが、他の事務所では玄関でサケの稚魚をふ化させている事例もある。チョウザメの飼育は難しいと思うが、江別河川事務所の玄関や防災ステーションを活用する形で魚類の飼育が考えられるかもしれない。外輪船での飼育については、江別市と協議する必要がある。
- ・ 小篠会長：千歳川の自然環境、書籍、お祭り等もまちづくりの重要な要素として位置付けられるかどうかは、今後の協議会、勉強会での議論に関わってくると思う。対岸との関係が密になってくるので、良い視点をいただいたと思う。
- ・ 藤原委員：生物多様性という意味で、生物だけでなく樹木も重要だと思う。桜並木にする案もあるが、歴史的観点から本来繁茂していた樹木を植樹するのも大事だと思う。
- ・ 小篠会長：そういったことが、かわまちづくりの管理運営プログラムになっていくとよいと思う。今までは見えやすいものばかり議論してきたが、社会教育・生涯学習あるいは環境教育といった形でやっていく必要があるし、取り上げることで予算の付き方が変わってくる可能性がある。管理運営組織が定着していけば意味深し、継続の可能性を担保することにも繋がると思う。協議会あるいは勉強会で議論していくポイントとさせていただきたい。
- ・ 小篠会長：かわまちづくり計画書の修正については、私に一任させていただき、

最終案としたい。

(5) 今後の予定について（説明：事務局 川島商工労働課長）

(6) かわまちづくり協議会について（説明：事務局 川島商工労働課長）

- ・ 小篠会長：非常に理想的なスケジュールで見ているところがあるので、来年度かわまちづくりの具体的な体制が立ち上がるかどうかは今の段階ではまだ何とも言えない。上手く立ち上げられるように努力していくことが、来年度の協議会の重要な役割になると思う。勉強会で個別の議論をしたいという人はたくさんいるが、全体的なところを見る人が必要なので、それが協議会の役割になると思う。全体を調整する協議会の役割が今年度までよりも重要になってくるのではないかと思う。既存団体との関係を強化しないと、まちづくりをドライブさせていく人材やお金に繋がっていかない。
- ・ 小篠会長：かわまちづくり計画を登録して終わりではないので、もう一度勉強会で合意形成をしていく必要がある。来年度から工事の設計に入っていくので、設計の段階で地域の人たちが考えている想いをどこまで入れられるのかというかなり具体的な話になるので、その調整も協議会や勉強会でやっていかななくてはならない。
- ・ 藤原委員：もし、かわまちづくり計画が登録されなかった場合はどうなるのか。
- ・ 大石所長：申請までに事前に下打合せを行うことが多く、申請して登録されないというケースはあまりない。登録されない場合は、登録されなかった理由を踏まえて議論を深め、次年度に再申請することになると思う。

### 3. その他

- ・ 川島商工労働課長：4月18日に市長に対して協議会として計画案をご報告いただく予定である。時間と場所について別途連絡するので、ぜひご参加いただきたい。

### 4. 閉会

以上